

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01201

研究課題名（和文）東南アジア映画の物語と表現を読み解く 地域研究と映画史研究の連携

研究課題名（英文）Analyzing the Representation of Southeast Asian Films through Collaboration of Area Studies and Film Studies

研究代表者

山本 博之（Yamamoto, Hiroyuki）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授

研究者番号：80334308

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,300,000円

研究成果の概要（和文）：社会・文化の理解を踏まえた映画分析の調査として、フィリピン、タイ、インドネシアの映画作品リストを作成し、研究会での議論を通じて5本を選び、信仰規範、階層格差、歴史認識の3つの角度から分析した。研究分担者および研究協力者による研究会を通じて、東南アジア諸国について、国ごとの映画史、主要な映画監督・作品、映像・上映技術の変遷などの観点から検討を行い、「東南アジア映画」という括り方の意義およびその内容について検討するとともに、研究成果の出版のための準備を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会と文化に通じた地域研究者と、映画史に通じた映画研究者との共同作業により、映画を通じて東南アジアの社会が直面する課題、および東南アジアに暮らす人びとがその課題をどのように受け止めて取り組もうとしているかを理解することができる。

研究成果の概要（英文）：As a survey of film analysis based on social and cultural understanding, five films each from the Philippines, Thailand and Indonesia were selected and analysed from three angles: belief norms, class disparities and historical perceptions. Through discussions in the project, the significance and content of the bundling of 'Southeast Asian cinema' was examined from the perspectives of film history, major film directors and productions, and changes in filming and screening techniques in each country.

研究分野：地域研究

キーワード：東南アジア 映画 物語文化圏 越境 混血

1. 研究開始当初の背景

東南アジア諸国において、映画はかつて国民的な大衆メディアだった。1980年代末から著しい地位低下を経験したが、国によって若干の時間差があるものの、2000年頃から再び国民的な大衆メディアの地位を得て今日に至っている。東南アジア諸国の映画制作が2000年前後にV字型の回復を見せたことは、東南アジア諸国が1997年～1998年に金融・経済危機を契機に政変や政治・経済の自由化を経験し、その結果として近年の急速な経済成長と都市化を迎えていることと時を同じくしている。映画が再び国民的な大衆メディアの地位を得たことにより、多数の観客を動員できないとしても社会の課題に切り込む問題意識を持って制作される映画に加え、より多数の観客の動員を目指すことで、国民の意識的または無意識的な欲求を満たそうとしつつ、そこに今日の社会が抱える諸問題も何らかの形で反映されるような映画が作られている。

急速な経済成長と都市化が進む今日の東南アジア諸国は、民主化・自由化に伴って伝統的な父権が弱体化する一方で、親(特に母親)が首都や海外に長期に出稼ぎ労働に出ることによる家族関係の変容(家族と社会)、新自由主義の進展に伴う格差の顕在化と拡大を踏まえ、民族的・地域的に多様な人々の間で公正な配分はどのように実現し、もし実現していない場合にはどのようにして解決がなされるか(公正と正義)、自然災害や紛争・テロなどによって身近な人の不慮の喪失を経験した人々がどのようにして喪失感を受け止めて生活を営んでいくのか(信仰と赦し)という3つの課題を抱えている。これらの課題を人々がどのように表現し、それを人々がどのように受け止めているかを、映画を素材として明らかにするのが本研究の課題である。

2. 研究の目的

東南アジアにおいて、映画を媒介にして作り手と受け手がどのような意味のやり取りをしているかを理解するには、現地の社会や社会に対する理解が欠かせない。その一方で、映画という表現形態は特定の国家に限定されるものではなく、世界各地で積み重ねられてきた映画表現を踏まえて制作されるため、作品を分析し解釈するためには国内外の映画史に対する理解も欠かせない。したがって、東南アジアの映画を通じて社会の問題を研究するためには、社会と文化に通じた地域研究者と、映画史に通じた映画研究者の共同作業が不可欠である。

アジア映画(とりわけ東南アジア映画)は、現地社会についての背景知識が十分でないことなどから、映画史研究では作品の内容に踏み込まれず、「マジックリアリズム」や「シュール」などの言葉で紹介されることも少なくない。これに対し、近年、本研究の研究代表者や研究分担者をはじめとする地域研究者により、現地事情を踏まえると整合性のある理解が可能であるというアジア映画の読み解きが試みられてきた。ただし、地域研究者による映画の読み解きは個別の作品に対して行われ、現地社会の理解に関心があることから、それらの作品の映画史上の位置づけについては十分に関心が払われてこなかった。

本研究は、映画史研究と地域研究の共同研究により、現地事情を踏まえた東南アジア映画の読み解きを試みるとともに、それを現地の事情通による「職人芸」にとどめず、映画史研究の枠組みで活用できる「文法」に昇華させて提示する方法論を示そうとする点に学問的な独自性と創造性がある。

また、映像資料を素材とした社会問題の研究ではドキュメンタリーが活用されることが多いが、本研究はフィクションである劇映画を活用し、そこに表現される人々の欲求と社会の課題を読み解き、その方法論を提示する。これは、映画を通じて「国民的な物語」の生成と普及を論じることである。「国民的な物語」の生成と普及に関して、B.アンダーソンは活字出版物を通じた「国民＝想像の共同体」の形成を論じた。アンダーソンの議論は、活字出版物の発明と普及によって、人は生涯に直接出会うことがない人を含む運命共同体を想像することが可能になったとするもので、東南アジアのような多言語社会で国民に共通の言語がなく、しかも識字率が低い国については十分に説明できない。本研究は、アンダーソンの「国民＝想像の共同体」という議論を踏まえつつ、それを支えるメディアとして文字資料ではなく映像資料の積極的な役割に目を向けている。

3．研究の方法

扱う対象を 1999～2018 年とし、フィリピン、インドネシア、タイの 3 国について、地元で制作された映画の毎年の作品リストをもとに、研究会での議論を通じて研究対象とする作品を選ぶ。フィリピン、インドネシア、タイの映画研究者。映画制作者を交えたディスカッションを通じて、家族と社会、公正と正義、信仰と赦しの 3 つの課題が作品にどのように表現されているかを検討する。

4．研究成果

社会・文化の理解を踏まえた映画分析の調査として、前年度までに作成したフィリピン、タイ、インドネシアの映画作品リストをもとに、研究会での議論を通じて 5 本を選び、信仰規範、階層格差、歴史認識の 3 つの角度から分析した。研究分担者および研究協力者による研究会を通じて、東南アジア諸国について、国ごとの映画史、主要な映画監督・作品、映像・上映技術の変遷などの観点から検討を行い、「東南アジア映画」という括り方の意義およびその内容について検討するとともに、研究成果の出版のための準備を進めた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 山本博之 | 4. 巻 2021 |
| 2. 論文標題 秘められた絵図：『夕霧花園』と『不即不離』が描く日本軍とマラヤ共産党 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 混成アジア映画研究 | 6. 最初と最後の頁 8-21 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 西芳実 | 4. 巻 2021 |
| 2. 論文標題 告白の行方：インドネシア映画『フォトコピー』（2021年）が照らす光と影 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 混成アジア映画研究 | 6. 最初と最後の頁 22-31 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 平松秀樹 | 4. 巻 2021 |
| 2. 論文標題 タイ映画『バッド・ジーニアスー危険な天才たち』とカンニング | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 混成アジア映画研究 | 6. 最初と最後の頁 32-42 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 石坂健治 | 4. 巻 54(4) |
| 2. 論文標題 タイ映画史にアピチャップンは接続できるのか？ | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 ユリイカ | 6. 最初と最後の頁 211-218 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 西芳実 | 4. 巻 2020 |
| 2. 論文標題 インドネシアのホラー映画に見る恐怖の起源 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 混成アジア映画研究 | 6. 最初と最後の頁 30-41 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 山本博之 | 4. 巻 2020 |
| 2. 論文標題 シンガポールのホラー映画に見える社会の危機意識と不安感 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 混成アジア映画研究 | 6. 最初と最後の頁 42-54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 山本博之 | 4. 巻 2020 |
| 2. 論文標題 正義が忠誠を倒すとき マレーシアの恋愛映画『ジュバ』が試みる古典文学の再解釈 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 混成アジア映画研究 | 6. 最初と最後の頁 60-66 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 西芳実 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 ポスト・スハルト体制期のインドネシア映画における家族主義 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 インターカルチュラル | 6. 最初と最後の頁 119-133 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 山本博之 |
| 2. 発表標題 英領マラヤにおける演劇と映画を通じた民族意識の形成 |
| 3. 学会等名 日本国際文化学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 西芳実 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 英明企画編集 | 5. 総ページ数 364 |
| 3. 書名 夢みるインドネシア映画の挑戦 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 平松 秀樹 (Hiramatsu Hideki) (20808828) | 京都大学・東南アジア地域研究研究所・連携准教授 (14301) | |
| 研究分担者 | 西 芳実 (Nishi Yoshimi) (30431779) | 京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|